

平成17年4月4日

さくらの花でまちづくり

染井吉野桜発祥の地～駒込～

ソメイヨシノ発祥の地として知られる東京・駒込では桜を生かした街づくりが大きな盛り上がりを見せている。

現在、日本の各地に植えられている桜の80%以上といわれているソメイヨシノは、江戸末期から明治初期にかけて、染井村（現在の豊島区駒込周辺）の植木職人が、オオシマザクラとエドヒガンを交配して開発したものだ。この史実を地域おこしに生かそうと地元商店会や町会の人たちが様々な取り組みを進めている。

発車のベルはさくらさくら

現在、JR駒込駅では電車の発車を告げるベルのかわりに「さくらさくら」のメロディーが流れている。これは、地元6町会、5商店会の代表らからの訴えにJR東日本東京支社が応えたもので、利用者からも慌しい発車間際でもふと心と好意を持って迎えられる。当初、3月19日からの1ヶ月の期間限定の予定であったが、好評により年間を通しての使用も検討されている。

オリジナル吟醸酒「染井桜」

また、桜の花びらをイメージしたオリジナル純米吟醸酒「染井桜」の限定販売も3月21日より始まっている。平成14年から始まったこのオリジナル吟醸酒の販売も今年4回目を迎えた。初年度は3600本を3日で完売。年々販売本数を増やし、今年は甘口、辛口をそれぞれ1万本ずつ用意している。

コマゴメは世界ブランド

今月3日には、駒込駅北口の区立染井吉野桜記念公園で第6回染井よしの桜祭りが開催された。毎年、地域の町会、商店会をはじめ周辺の小中学校、警察、消防なども参加し、街をあげてのイベントとして大いに盛り上がるこの催しに今年は外国からもお客様が訪れた。ペンシルバニア大学附属モリス植木園園長のポール・マイヤー氏と米国国立樹木園園長で植物学博士のトム・イライアス氏である。「財団法人 日本さくらの会」の招聘で来日中の両氏は、世界的にも有名なソメイヨシノ発祥の地で開かれる『桜祭り』と聞きつけ急遽会場を訪れた。和太鼓が鳴り響く会場で「さくら」パワーで盛り上がるにぎやかな祭りを堪能していた様子。

駒込発の「さくら」による地域おこしは、今後もさらに続いていく。世界の各地で「桜といえば駒込」と呼ばれる日も遠くない。

詳細 商工部観光課プロジェクト推進担当